

春夏野菜の準備

<3 月中の準備と作業>

- ① 秋冬野菜の残渣を順次除去
- ② 植え込みのための土づくりと施肥
- ③ 雑草が成長して根を張ってくるので、取れる範囲で除去する

※これからの天候で気をつけることは、3月上旬から日差しが強くなり日中の気温が上がりますが、まだ夜は寒く、4月下旬から5月上旬でも遅霜が降りることがあるので、注意してください。

野 菜 名	栽 培 管 理 作 業
ソ ラ マ メ エ ン ド ウ	<追肥> 3月上旬までに化成肥料(8-8-8)を株から離して施肥 ソラマメは100 g/m²、エンドウは70g/m² <乾燥防止> 株元にマルチを敷いて4月上旬からの開花、実の肥大時の乾燥を防ぐ
イ チ ゴ	・黄化した下葉を除去し、株近くの雑草を除去 ・3月中旬に化成肥料(8-8-8)を10g/株を株から離して施肥後、灌水する ・その後雑草抑制と乾燥防止のため、ワラマルチか、雨後に黒マルチを施す - マルチをすると追肥がし難いため、灌水を兼ねて300倍の液肥を収穫までに2回追肥する ・周辺にいるナメクジを除去

<春夏野菜の準備のための土作り>

1) 春夏野菜の土・施肥での失敗の例

- ・寒い時期に苗を植え込んだ時、**元肥量を多く入れ過ぎる**
 - ➡ ナスは石ナス、トマトは樹が旺盛になり花が着かない
- ・梅雨時の長雨（特に水はけの悪い場所）
 - ➡ 根腐れや土壌病害でトマトを枯らした
- ・**肥料袋に書いてある説明を読まない**
 - ➡ 多量に施肥し、肥料当たりを起こし苗が枯れた

- ・ 毎回石灰を多く入れ過ぎた
 - ➡ 土がアルカリ化し微量要素欠乏症が葉に現れた
- ・ 有機肥料と化学肥料の特徴がわからない
 - ➡ どちらを使うか肥料の購入時にまよった

2、耕す前の土の準備とのおさらい

- ・ **前作の野菜残渣は、農園内に置かずできるだけ早く自宅に持ち帰る**
 - ➡ ナメクジなど越冬病虫害の軽減のため
秋に野菜残渣を畑に鋤きこみ春まで放置すれば、冬の乾燥で野菜残渣の分解が進みまた低温で病害虫が減少するため。
鋤きこみは OK です
- ・ 耕すかどうかは、先のとがった棒を土に差し込み 20 cm以下までスツと入るかどうかで決めます。(地中 20 cm以下は地温や土壌湿度が安定し、根の発育や肥料の効き方が良いため)
 - ➡ 棒が土に入らなければ、20 cm以上の深さまでスコップや鍬で耕す
- ・ 酸性土壌を避けるためには普通は 80~120g/ m²範囲で施す。
 - ➡ 毎年石灰を多量(200g/ m²以上)に施していた場合は、土壌のアルカリ化が進み乾燥時に土が固くなり、また微量要素が溶け出ないことがあります。
石灰を半量に減量し腐葉土（酸性のため）を多めに入れて野菜の生育の様子を見ます。
- ・ **排水の悪い区画は**
 - ➡ 畝板の側面に沿って溝を掘り、底に礫や発泡スチロールを入れた後に元の土を戻します。
水はけと保水性をさらに良くするために腐葉土や完熟堆肥を多めに入れます。
また排水の良すぎて乾燥する所は腐葉土・完熟堆肥を多めにし、畝高を高くして土の保水力を高めます。
- ・ 冬、夏期の乾燥時は
 - ➡ フラなどのマルチを敷き、寒冷紗で小トンネル状に畝の覆いをして高温乾燥や低温乾燥を和らげます。
逆に冬は多湿による根腐れを起こしやすいので多灌水は避けます

3、畝づくりの注意点は

- ・ **畝の方向**は？
 - ➡ 東西がよい。午前・午後の日当たりのムラが少なく、野菜の生育の

ムラが少ない。

南北だと、東面側は朝日がよく当たり生育や収穫が早く、西面側の収穫は遅い傾向があり生育にムラがでます

・ **畝幅**は？

➡ 葉の大きさや側枝の伸びによります。

ナス：150 cm以上、イチゴ(2 条植え)：120 cm、トマト(1 条植え)：60 cm、葉菜、根菜：30～90 cm(管理や収穫作業のため)

・ **高い畝**は

➡ 保水力があり収穫時期が乾燥期で水分が必要なイチゴ、ナスで利用されます

4、土づくり資材の使い方

(各自の資材への好みがあり、自分にあった方法を見つけて下さい)

1) 完熟堆肥(併せて腐葉土)と石灰を植え付けの2週間前までに散布し深く耕し土と攪拌しておく。

2) その後植え付け1週間前から5日前までに化成肥料(8-8-8)を施し耕す。

※日数に幅があるのは、肥料の量や種類(速効性、遅効性)による肥料当たりを防ぐため

この時、土が乾いていればたっぷり水を撒く、

3) アンモニア臭が感じられる未熟堆肥 ➡ 種にタネバエが加害しやすい。
 ➡ 根の伸びを抑える害あり

◎種まきの1か月前に施しアンモニアの分解を促しておく

4) 石灰資材の施用後に土壌アルカリ度が急激に上昇

➡ 沈静化のために最低10日間必要

5) 牛、豚、鶏などの動物の糞尿類を使用する場合

➡ 分解醗酵の熱をかけた堆肥の使用がよい

(理由：未熟たんぱく質の分解や病原菌の減少)

5、化成肥料と有機肥料の特徴(数字、名称は農文協の肥料便覧を参照です)

(肥料袋の表示では、順番に窒素(N)、リン(P)、カリ(K)で数字は含有率(%)を表しています)

<有機肥料>

分類	原料名	窒素：リン：カリ
植物性	ナタネ油粕	5-2-1
	大豆油粕	6-1-1
	綿実油粕	5-1.5-1
	米ぬか	

動物質肥料	魚 粕	7-6-0
	骨 粉	4-20-0
動物の糞	鶏糞堆肥 ^{*1}	3.3-9.3-4.4

*1：有機質肥料としての性質が強い

・有機肥料の使い方

畝に混ぜ込む

(微生物がいて、水分・温度のある所で有機質を分解する)

油粕類 (Nは6%程度) : 200g/m²

注)リン酸やカリ成分が不足する

➡ 骨粉や草木灰などのカリ肥料も併せて施す

ボカシ肥料：有機肥料を醗酵させ肥効を早めたもので、追肥に利用

<化成肥料>

－速効性肥料

緩効性肥料 (園芸 I B 化成 10-10-10、CDU化成など)

－高度化成：三要素の含有量の合計が30%以上のもの

－低度化成又は普通化成：三要素の合計が30%以下のもの

－単肥 (尿素 46-0-0、硫安 21-0-0、硝安 34-0-0)

・化成肥料の使い方

畝に混ぜ込む

元肥：化成肥料(8-8-8)を 80g-150g/ m²鋤きこむ

追肥：株から少し離して置くか、株間に溝を引きそこに置く

<<有機肥料と化成肥料との比較表>>

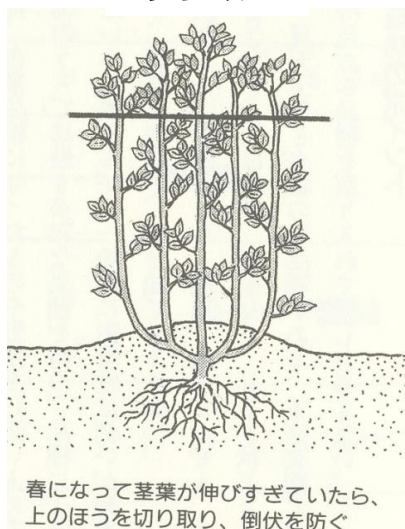
有 機 肥 料	化 成 肥 料
分解には微生物と水分、温度が必要 冬は特に時間がかかります	水溶性で早く効き、冬季には早く効く。
窒素成分が低い：2%～6%	窒素成分が高い：8%～40%
栽培規模が大きいと肥料散布手間が必要となります 有機でも堆肥や腐葉土は必要	堆肥と併せて使わないと土中の有機物が減り、土が痩せます
たんばく質が分解しガスが出てハウス内でガス障害がでることがあります	含有成分が高く肥料のやりすぎで肥料当たりが起きやすい

しっかり土づくりを行い安定した収穫をあげましょう！

3月4月にかけての管理作業

野菜名	栽培管理作業
タマネギ	追肥：3月中旬～下旬に、1㎡あたり化成肥料 50g を施します (1株あたり1つまみ[約2g]) 日本では3月になると日差しが長くなり光の量が増える ↓ 光合成が活発、生育を始め、タマ(球根)が肥大
ソラマメ	間引き：生育が盛んになり、株元から枝分かれしてきたら、 生育の良い5～6本を残し、他は摘み取る この時、1株あたり、軽くひと握りの肥料を施し、土寄せする 摘 芯：草丈が70cm以上になると上のほうは刈り取る (先端に咲く花は実にならないことが多い) ↓ ・倒れにくくなる ・アブラムシの被害の防止(先端によく着く) 収穫時期：サヤが下を向き、背筋が黒くなって光沢が出てきた時
エンドウ	追 肥：リン酸(過リン酸石灰)やカリの多い肥料(草木灰、PやKの成分の多い化成肥料)を株元に一握り施肥する 支柱を立てて誘引します。 収穫適期： ・サヤエンドウ→さやが平らで、実の小さい時 ・実エンドウ→中の実が充実し、さやが膨れて表面の光沢が無くなり、ざらつくようになった時

ソラマメ



エンドウ



- ・施肥の目安(堆肥：スコップ1杯：2kg、苦土石灰1握り：約40g、化成肥料1握り：約30g、1つまみ：約2g)

春・夏野菜の土づくり(石灰の使い方)

春・夏野菜を作るための土をしっかりとつくる時期です。

連作障害を凌(しの)いでいくためにもしっかりと丈夫な土をつくりましょう

(植え付け2週間前)

- ① 苦土石灰を 100g~200g/㎡まんべんなく撒く
- ② 石灰苦土と土がよく混ざるように鍬(くわ)などでよく耕す
→良く耕すことによって苦土石灰と土のpH(ペーハー)が安定し
作物に合った栄養分が吸収されやすくなる
また、よく耕すことによって土の中に隙間ができ、水のとおりや空気のとおりがよくなり、根が元気になります。

(植え付け1週間前)

- ③ 石灰が土によく馴染んでから、
完熟堆肥を 1㎡あたり 2~3 kg/㎡撒く
- ④ さらに元肥として、化成肥料を 100g~200g/㎡撒く
- ⑤ 鍬(くわ)などですべての資材が土とよく混ざるように耕す
- ⑥ 最後に表面を軽くなります。

注) 石灰と堆肥・元肥を一度に施用するとどうなるか……

石灰と肥料を一度に入れると肥料の窒素成分が石灰のアルカリ分と反応し、窒素成分が反応して気体になり、窒素ガスとして空気中に出ていってしまい、肥料分が無駄になる

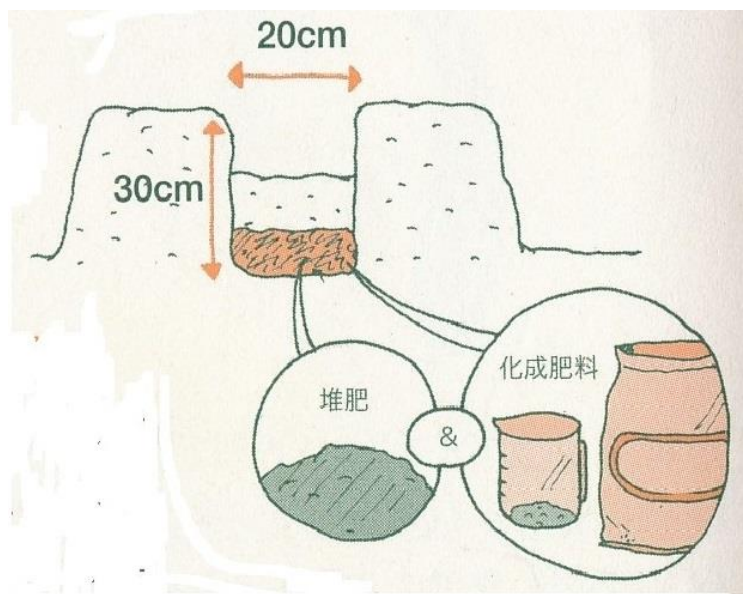
ナス、トマト、ピーマン・トウガラシなどのナス科野菜を植え付ける時の注意

(植え付け1週間前)

堆肥と元肥を施用する時、うねに 30cm(できれば深いめ)の溝を掘り、堆肥と元肥を入れて土を埋め戻す

(堆肥・元肥は植え付け
面積 1㎡あたりと同じ)
(長丁場で、根が深く広く
伸びていくため)

※キュウリなどのウリ科野菜は
根が浅く広がるので堆肥・肥料
は全面に施用して耕します。



トマト・ナス・トウガラシの堆肥・
元肥え施用(石灰施用後 1 週間)

春・夏野菜の土づくり(石灰の使い方)

春・夏野菜を作るための土をしっかりとつくる時期です。連作障害を凌(しの)いでいくためにもしっかりと丈夫な土をつくっていきましょう

美味しい野菜が収穫できるようにするため、耕した土に石灰、堆肥、肥料を入れて野菜栽培に適した土にしていきます。

野菜の植え付け準備(植え付け2週間前)

① 石灰を撒く

苦土石灰を 1㎡あたり 100g まんべんなく撒きます。

② 石灰苦土と土がよく混ざるように鍬(くわ)などでよく耕します。

良く耕すことによって苦土石灰と土のpH(ペーハー)が安定し、作物に合った栄養分が吸収されやすくなります。

また、よく耕すことによって土の中に隙間ができ、水のとおりや空気のとおりがよくなり、根が元気になります。

(植え付け1週間前)

③ 1週間ほど経って、石灰が土によく馴染んでから**完熟(牛糞)堆肥**を 1㎡あたり 2~3kg 撒きます。

④ さらに元肥として、**化成肥料(8-8-8)**を 1㎡あたり 100g 撒きます。

⑤ ②と同様に鍬(くわ)などで**すべての資材が土とよく混ざるように耕します。**

⑥ 最後に表面を軽くなります。

○石灰と堆肥・元肥を一度に施用するとどうなるか……

石灰と肥料を一度に入れると肥料の窒素成分が石灰のアルカリ分と反応し、窒素成分が反応して気体になり、窒素ガスとして空気中に出ていってしまい、窒素肥料分が無駄になってしまいます。

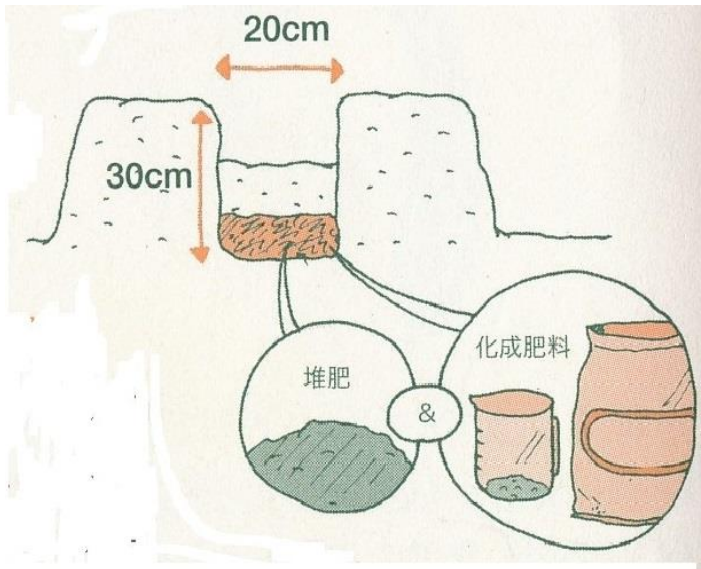
○ナス、トマト、ピーマン・トウガラシなどのナス科野菜を植え付ける時の注意 (植え付け1週間前)

堆肥と元肥を施用する時、うねに30cm(できれば深いめ)の溝を掘り、堆肥と元肥を入れて土を埋め戻します。

(堆肥・元肥は植え付け面積1㎡あたりと同じ)

(長丁場で、根が深く広く伸びていくため)

※キュウリなどのウリ科野菜は根が浅く広がるので堆肥・肥料は全面に施用して耕します。



トマト・ナス・トウガラシの
堆肥・元肥え施用
(石灰施用後 1 週間)

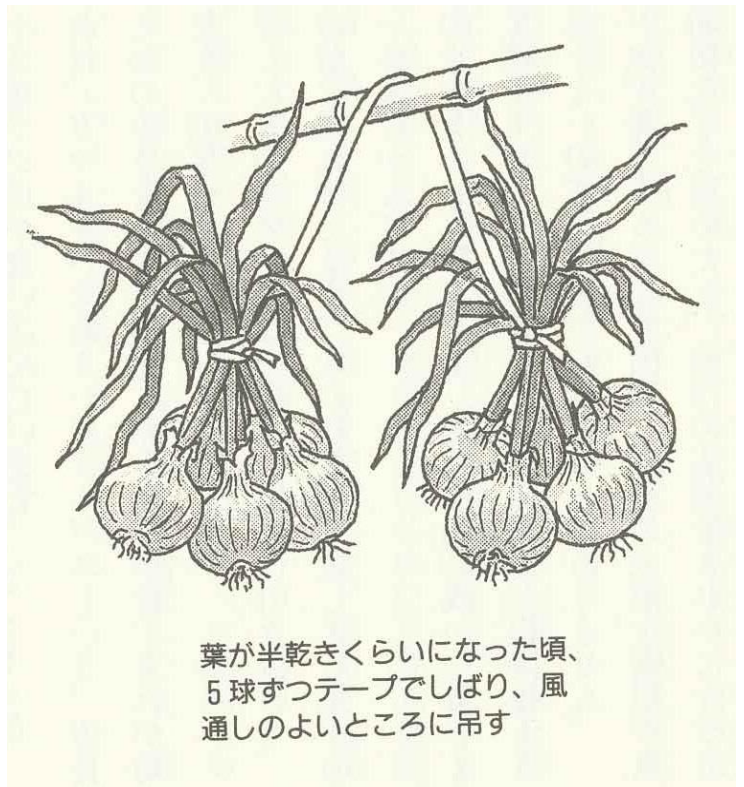
タマネギ(玉葱)の収穫について(ユリ科)

タマネギのふるさは地中海性気候で生育期の冬は温暖で比較的、雨がよく降ります。日本では3月になると日差しが長くなり光の量が増えてきます。そうすると光合成が盛んになり、生育を始め、タマ(球根)が肥大していきます。苗の植え付け前に元肥えとして施したヨウリンが効き出してきます。

・ 収穫

葉が黄色くなり、**自然に倒れてから 1 週間～10 日後**が収穫の適期。
晩生の場合、収穫する時期が梅雨入りの時期と重なる場合が多いので、現実的には8割が倒れた頃に収穫することになります。

*倒伏してからも葉で作られた養分が、タマ(球根)の方に移動します。
その期間が球根の充実に大きく影響します。



葉が半乾きくらいになった頃、
5 球ずつテープでしばり、風
通しのよいところに吊す

ソラマメ(空豆、蚕豆)(マメ科) 原産地：アフリカ北部

1. 管理

暖かくなって生育が盛んになり、株元から枝分かれしてきたら生育の良い5~6本を残し、他は摘み取ります。

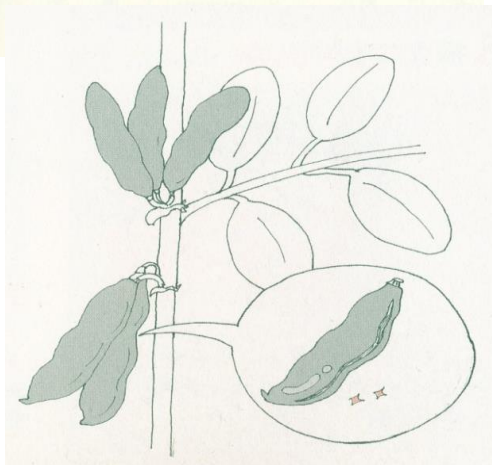
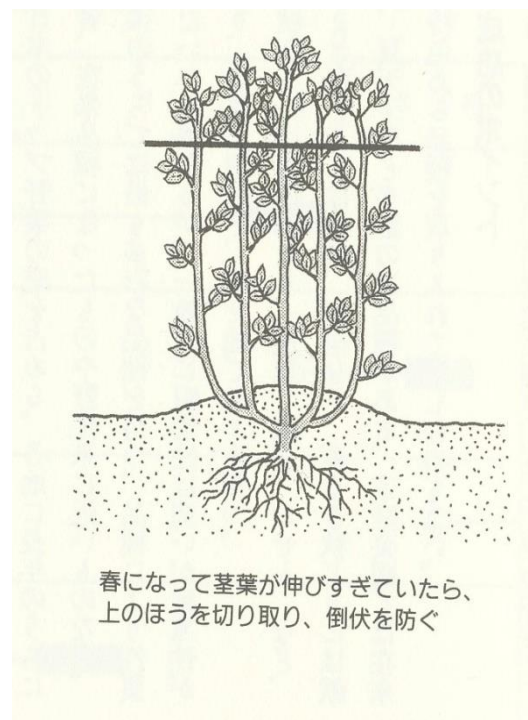
この時、1株あたり、かるくひと握りの肥料を施し、土寄せします。

草丈が70cm以上になると倒れやすくなるので上部を刈り取る。先端に咲く花は実がとまらないことが多いので、刈り取っても差し支えありません。先端を刈り取ることによって、養分を実が充実するほうに回すことができます。また、アブラムシが先端によく着くので、被害の防止になります。

2. 収穫

上向きになっているサヤが下を向き、背筋が黒くなって光沢が出てきたら適期

(施肥の目安 堆肥：スコップ1杯：2kg、苦土石灰1握り：約40g、化成肥料1握り：約30g、かるく1握り：約20g)



夏野菜苗の購入・植え付けのヒント

※野菜苗を買う時期は、5月の連休まで待ちましょう！

○春から夏にかけての作物の苗を買うときの注意

4月は一年の中でいちばん天候の変動の大きい月といわれています。

特に、寒の戻り、強風、大雨などであり、昼夜の気温の差もいちばん大きい時期です。

園芸店、ホームセンターなどで「季節の先取り」と称して、4月初旬からすでに野菜苗を販売しているところもありますが、買ってすぐに植え付けると、全然大きくならず、枯れてしまうことがあります。

この頃、売られている苗は、施設で育てられています。

まさに昼夜の気温の変化にも慣れていない「温室育ち」です。

全然大きくならないと、「早く育てほしい」という親心が働いて、**肥料や水をやり過ぎ**る場合が多く見られます。それにより「**肥あたり**」を起こし枯らしてしまうことも少なくありません。

苗は人間でいえば「赤ちゃん」。大事に育ててやらなければなりません。

暖かくしてやらなければなりません。

また、根の力が無い時に、肥料をたくさん施しても、赤ちゃんに「ミルクならぬステーキを食べさせる」のと同じです。

それと農園に来て何もしないで帰れないので、「とりあえず水やり」をして自己満足で帰る、という行動。水のやり過ぎが多いです。

ホームセンターなどは一度枯らさせてから、連休頃にもう一度買わせる算段をしているといっても言い過ぎではありません。

○夏野菜はもともと暖かい地方原産のものが多いです。

5月になって、暖かくなってから、苗を植え付けると、土の温度も上がって、根もはやく元気になっていきます。

早く、植えつけて、失敗するより、暖かくなってから植えつけた方が生育がよくなります。

しつこいようですが、

「野菜苗を買う時期は、5月の連休まで待ちましょう！」

春夏野菜の準備

3月下旬からホームセンターにトマトなどの夏野菜の苗が並び始めます。
春は次第に気温が高くなる時期ですので、無理な早植えをしても収穫開始時期の差は大きく変わりません。

トマト : 4月中旬以降
キュウリやナス : 4月下旬以降
トウガラシやニガウリ : 5月の連休以降

に植えると順調に育っていきます。

植え付け予定の半月～1か月ほど前に施肥やうね立てを行い、1回以上の降雨に当たると耕起でふかふかになった土が少し締まり、肥料も土の中で拡散し作物に吸収されやすくなります。

春夏野菜は実を収穫する野菜(果菜類と呼びます)が多く、基肥が多すぎると葉や茎が繁茂して花が着きにくなります。

施肥量は栽培する作物の種類や前作までの履歴にもより異なります。

春夏の果菜類では、1㎡あたり

苦土石灰 : 100g 程度

化成肥料(8-8-8) : 100g

堆肥 : 3-4kg

を基準量として施用します。

肥料を撒いた後、鍬などで土の表面から20cmくらいの深さまですき込みます。
次にうねを立てます。

通路の中心から隣の通路の中心までの幅はできれば1mはほしいところです。
幅が狭いと野菜が大きく生長した時に風通しが悪くなり病虫害が発生しやすくなります。

その他 3 月に行う作業

○追肥

タマネギ：3月上旬までに

ソラメ、エンドウ、イチゴ：3月中旬までに

追肥を与えます。

施肥量は化成肥料(8-8-8)を㎡あたり 50g 程度、株の周りにばらまきします。

追肥時期が遅れると、タマネギでは苦みを帯びたり貯蔵可能期間が短くなる、イチゴでは実の甘みが低下する、などの症状が発生しやすくなります。

○イチゴの下葉かき、マルチ

冬の寒さで傷んで緑色でなくなった下葉は、株を傷めないように注意しながら取り除きます(放置しておくとなメクジのすみかになりやすいです)。

下葉を取り除いた後、いなわらやマルチ用フィルムでマルチをすると降雨により果実に泥が付着するのを抑えることができます。

<参考>

表 1. 野菜ごとの好適土壌酸度 (pH 値)

好適pH範囲	作物名	
6.5～7.0 (微酸性～中性)	野菜	えんどう、ほうれんそう
	花き	ガーベラ、カスミソウ、スイートピー、あじさい(赤)
	果樹	
6.0～6.5 (微酸性)	野菜	アスパラガス、いんげん、えだまめ、オクラ、かぼちゃ、カリフラワー、さといも、しゅんぎく、すいか、スイートコーン、セルリー、そらまめ、タマネギ、とうがらし、トマト、なす、にら、ねぎ、はくさい、パセリ、ピーマン、ブロッコリー、みつば、みょうが、メロン、落花生、レタス
	花き	カーネーション、グラジオラス、シクラメン、スターチス、ストック、ゼラニウム、パンジー、フリージア、ポインセチア、
	果樹	キウイフルーツ、さくらんぼ、ぶどう、もも
5.5～6.5(微酸性～弱酸性の広領域)	野菜	イチゴ、カブ、キャベツ、きゅうり、ゴボウ、コマツナ、ダイコン、チンゲンサイ、フキ、ニンジン、レンコン
	花き	キク、コスモス、スイセン、マリーゴールド、ユリ、バラ
	果樹	イチジク、ウメ、カキ、ナシ、ミカン、リンゴ
5.5～6.0(弱酸性)	野菜	サツマイモ、ショウガ、ニンニク、ジャガイモ、ラッキョウ
	花き	セントポーリア、プリムラ
	果樹	クリ、パイナップル
5.0～5.5(酸性)	野菜	
	花き	シダ、ベゴニア、リンドウ、シャクナゲ、ツツジ、ツバキ、あじさい(青)
	果樹	ブルーベリー